

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24243045

研究課題名(和文) 世界貿易の多元性と多様性 「長期の19世紀」アジア域内貿易の動態とその制度的基盤

研究課題名(英文) Plurality and Variety of the Global Trade: Dynamics and Institutions of the Intra-Asian Trade during the "Long 19th Century"

研究代表者

城山 智子 (SHIROYAMA, Tomoko)

東京大学・経済学研究科(研究院)・教授

研究者番号：60281763

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,400,000円

研究成果の概要(和文)：18世紀後半から第一次大戦までの「長期の19世紀」には、世界経済の画期となる貿易の質的变化と量的拡大がみられた。本研究は農作物・軽工業品を中心に多角的に展開されたアジア域内貿易に焦点を当て、データ(18-20世紀アジア主要港貿易統計)、分析枠組み(取引連鎖分析)、分析ツール(空間解析ツールによる可視化)のそれぞれに関して、新たなアプローチを採り、貿易拡大の動態とその制度的基盤を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：During the long 19th century from the late 18th century to the eve of the World War I, the world trade marked a watershed in terms of volume, value, and the variety of commodities, and the speed with which they moved. Focusing on the intra-Asian trade of agricultural products and light industrial goods, this project investigates the dynamics of trade expansion as well as its institutional backgrounds by applying new data (port-based trade statistics from the 18th to the 20th century in Asia), analytical framework (commodity-chain analysis), and analytical tool (visualization with GIS).

研究分野：経済史

キーワード：アジア 19世紀 貿易 地理情報システム(GIS) 取引 制度 統計 可視化

## 1. 研究開始当初の背景

18世紀後半から1914年の第一次大戦開戦に至る100年余りの「長期の19世紀」には、品目の多様化、関与する国や地域の増加、取引の恒常化・安定化といった従前とは大きく異なる質的な変化を伴って、世界規模での貿易が飛躍的に拡大した。1990年代以降、世界各地の経済の比較と歴史的な関係性の深化の分析を中心的テーマとするグローバル経済史研究が進む中、こうした変化の画期的の中でも、18世紀末に始まる新大陸の資源貿易が工業化する西欧とその他の非西欧地域との経済発展の分岐の起点となったとする K. ポメラントツの議論 (Kenneth Pomeranz, *Great Divergence*, 2000) が、学界の大きな注目を集めている。しかし、西欧と非西欧との双方向の長距離取引のみに注目するならば、地域 (リージョナル) や現地 (ローカル) の貿易・取引を含んで進行した世界経済における相互依存の多元性や、前近代 (18世紀末以前) とその後の時代との関係性を閉却することになるであろう。

また、こうした変化と拡大の動因については、当時の主要な国際貿易レジームであった自由貿易体制の下での強い市場間連鎖が議論されてきた (「自由貿易体制論」Patrick O'Brien, "European Economic Development: The Contribution of the Periphery," 1982 等)。一方、本研究の前身となる「世界貿易の拡大と取引制度の再編：19-20世紀アジア・北米の歴史比較分析」(H21-23 基盤研究 (B)、研究代表者：城山智子) は、アジアの伝統的貿易体制が対西欧への開港以前から低関税と外国商人への開放性を特徴としていたことを明らかにし、環大西洋での市場統合を促した自由貿易原則が、アジアでは必ずしも貿易拡大の重要な要因とは考えられないことを指摘した。こうした成果を含めた地域経済史研究が貿易レジーム論を問い直す中、1980年代のアジア交易圏論以来蓄積され

てきた商人、商人組織及び交易都市に関する研究は、ミクロ・レベルでの商取引制度の態様を明らかにする重要な貢献であった。近年は、イギリスの植民地統治体制や貿易レジームと、在地のアジア商人の活動との関係にも考察が行われている (籠谷直人・脇村孝平編『帝国とアジア・ネットワーク』2009年)。しかし、これらのミクロな事例研究は、1860年代以降の時代を中心に東アジア、東南アジア、南アジアの各地域内や各交易都市を個別に取り上げており、マクロ・レベルでの貿易動向との関連性や地域間貿易の取引システム全体は十分に検討されてこなかった。

## 2. 研究の目的

こうした研究状況に鑑みて、本研究は、域内で生産・消費された農産物や軽工業品をめぐるアジア域内貿易に焦点を当て、「長期の19世紀」の世界貿易拡大の動因とその影響を考察する。同時に、以下のように、マクロ統計分析、ミクロ取引分析、貿易パターンの時空間分析を組み合わせ、貿易史・経済史の新たな研究手法の可能性を拓くことを目指した。

(1) マクロ統計分析 (港別貿易データベースの構築・分析): 国別に集計される前段階の港別貿易統計をデータベース化する。貿易港に着目することで、近代国家とその統計システムの成立以前から機能していた、18~20世紀における交易中心地間の商品のフローを通時的に明らかにし、市場の水平的拡大と港湾都市の農村部への取引関係の深化 (市場の垂直的拡大) の双方を分析する。

(2) ミクロ取引分析 (商品連鎖分析): 上記の貿易動向に関する分析を踏まえて、各時期の主要域内貿易品 (アヘン: 18c.末~19c.中葉、米: 19c.前半以降、綿花・綿製品: 18c.後半~20c.初) の生産地から消費地に至る取引の連鎖を分析する。

(3) アジア域内貿易の時空間分析: 上記の2つの分析を通じて、生産地と消費地を結ぶ買

易関係に関するデータが抽出される。本研究は、地理情報システム (GIS)・3次元 CAD ソフトウェア等を利用した多地点間の貿易関係の地図上への可視化を行う。貿易ルートとその時系列的变化を可視化すること自体、研究上極めて有益であるが、時空間分析は、取引連鎖上の地点に関する自然的 (気候・地形等) 社会経済的 (人口、物価、所得水準等) 及び地政学的 (政治体制、行政レベル等) な複数の条件を相互連関的に検討することで、距離・移動コストと貿易動向との関係といった既存モデルの検証と共に、多様な要因から新たな仮説を構築し、貿易の空間的分布と時系列的变化の決定要因にも考察を加える。

### 3. 研究の方法

この目的を達成するに当たって、東アジア、南アジア、東南アジアの経済史研究者と、アジア法制史、メディア研究、地理情報システムの専門家が、マクロ統計分析、ミクロ取引分析、貿易パターンの時空間分析の3つのアプローチを、2班 (貿易統計・時空間分析班と商品連鎖・取引制度班) 4パート (各班でのデータ構築と分析) からなる研究組織を構築して推進した。貿易統計・時空間分析班は、中国海関統計から主要貿易港間のデータベース (DB) を、アジア各地で刊行された英字新聞掲載の船舶情報の DB をそれぞれ構築し、地理情報システムを用いて地図上に可視化した。商品取引・取引制度分析班は、各地域での一次資料調査を通じて、アジア地域における商品流通システムに関して、特に、ハード・ソフト双方のインフラ構築と運用に関する比較分析を進めた。

### 4. 研究成果

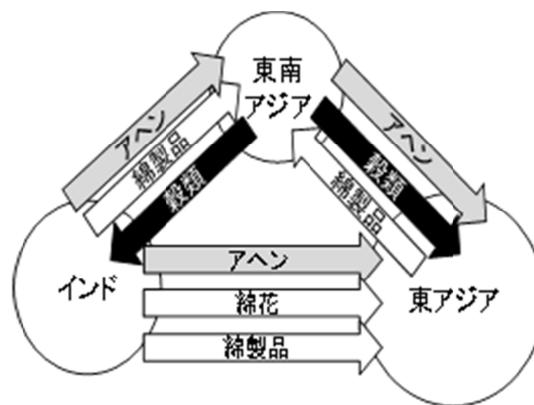
貿易統計・時空間分析班は、中国海関統計から作成したデータベースから、各開港場のボロノイ商圏 (ティーセン・ポリゴン、空間独占商圏、または均等競合商圏とも呼ばれる、

空間解析上の分析概念である。この種の市場エリアでは、消費者が最も近い流通の拠点に出向くことを想定している。2つの競合の中間にラインが描画され、中間点の垂直二等分線でこれらの競合が数学的に定義される。) と国内取引ルートを、アジア各地の英字新聞掲載の船舶情報のデータベースから船舶運航量を可視化すると共に、汽船航行手引書から、帆船・汽船の航路図、風向・海流図をデジタル・データ化した。これらは、従来、文書資料をもとに記述されてきたアジア地域間の交易関係を定量的に明らかにし、さらにその時系列的变化を地図上に示している点

で、アジア経済史研究に大きな貢献をなすものである。こうした可視化の成果は、本研究のウェブサイト、Visualizing Economic History in Asia ([www.veha.e.u-tokyo.ac.jp](http://www.veha.e.u-tokyo.ac.jp)) 上で公開した。

商品取引・取引制度分析班は、2012年7月第16回世界経済史会議 (World Economic History Congress, ステレンボッシュ、南アフリカ) にて、本研究の概容について紹介するパネル “The Intra-Asian Trade during the ‘Long 19th Century’: Formation and Dynamics of Regional Commodity Chains” を組織し、域内で生産された農作物と軽工業品の取引によって結ばれた、域内交易のモデルを提示した。(図1)

図1 アジア域内交易の商品と地域間関係



2014年9月には、Fourth European Congress

on World and Global History のセッションでも、アジア商人の取引制度に関する発表を行った。そうした国際学会で得られたフィードバックを踏まえ、又、貿易統計・時空間分析班による貿易の空間配置に関する分析結果を組み込んで、第 17 回世界経済史会議では、“Formation of Logistics Clusters in the Age of Global Trade Expansion: The Cases in Asia from the 19<sup>th</sup> to 20<sup>th</sup> Century” で、港湾都市のインフラ構築に焦点を当て、成果発表を行った。これらの成果は、英文論文集、Tomoko Shiroyama and Kaoru Sugihara eds., *Intra-Asian Trade and the Rise of Regional Economy in the Long 19th Century* として、刊行の定である。

#### 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

村上衛「清末華南沿海の「制度」: 秩序形成のあり方を中心に」『孫文研究』56 巻 (2015 年) 13 - 30 頁 (査読なし)

杉原薫「世界貿易における『長期の 19 世紀』」『社会経済史学』79 巻 3 号(2013 年) 3 - 28 頁 (査読なし)

SHIROYAMA, Tomoko. “Institutions Governing Long-Distance Trade in Asia During the 18<sup>th</sup> and 19<sup>th</sup> Centuries: Example from the Gongguan Archives of Batavia,” *Modern Asian Studies Review* 4 (2013), 15-30 (査読なし)

MURAKAMI, Ei. “The Opium Trade and the Transformation of the Maritime Trade System in Pre-Opium War China: A Reexamination.” *Modern Asian Studies*

*Review* 4 (2013), 31-57 (査読なし)

KANDA, Sayako. “Forged Salt Bills, Speculation, and the Money Market in Calcutta: The Economy of Bengal in Colonial Transition, c. 1790-1840.” *International Journal of South Asian Studies* 15 (2013), 89-112 (査読あり)

[学会発表](計 6 件)

SHIROYAMA, Tomoko. “Theoretical Implications of Logistic Clusters.” The 17<sup>th</sup> World Economic History Congress, (2015 年 8 月 5 日、京都国際会館、京都府、京都市)

SUGIHARA, Kaoru. “Growth and Diversification of Trade in Domestic Products in Colonial India: Evidence from Internal Trade Statistics.” The 17<sup>th</sup> World Economic History Congress, (2015 年 8 月 5 日、京都国際会館、京都府、京都市)

SHIROYAMA, Tomoko. “Local Market Institutions in the Age of Global Trade Expansion.” Fourth European Congress in World and Global History, (Ecole Normale Supérieure, 2014 年 9 月 6 日、パリ、フランス)

KANDA, Sayako. “Salt Merchants and Trade Institutions in Early Colonial Bengal.” Fourth European Congress in World and Global History, (Ecole Normale Supérieure, 2014 年 9 月 6 日、パリ、フランス)

SHIROYAMA, Tomoko. “Overview of the

Intra-Asian Trade during the “Long 19<sup>th</sup> century” : Formation and Dynamics of Regional Commodity Chains.” The 16<sup>th</sup> World Economic History Congress (2012年7月11日、ステレンボッシュ、南アフリカ共和国)

MURAKAMI, Ei. “Trade and Concession: Opium Trade in Canton before the Opium War.” The 16<sup>th</sup> World Economic History Congress (2012年7月11日、ステレンボッシュ、南アフリカ共和国)

〔図書〕(計5件)

城山智子「黄浦浚渫(1907-1910): モリソン・パンフレット内資料の位置づけ」  
ス波義信編『モリソン・パンフレットの  
世界 I I』東洋文庫(2016年) 232頁  
(157-177頁)

田辺明生、杉原薫、脇村孝平『シリーズ  
現代インド1 多様性社会の挑戦』(東京  
大学出版会、2015年) 392頁

SHIROYAMA, Tomoko. “The Hong Kong and South China Financial Nexus: Ma Xuchao and His remittance Agency.” In Sherman Cochran ed., *The Capitalist Dilemma in China's Communist Revolution* (Cornell East Asia Program, 2014), 321 pages (pp. 203-224)

牧野文夫・王玉茹・木越義則「物価・賃  
金：戦前期の推計と分析」南亮進・牧野  
文夫編『アジア長期経済統計：中国』(東  
洋経済新報社、2014年)576頁(171 - 190  
頁)

村上衛『海の近代中国：福建人の活動と  
イギリス・清朝』(名古屋大学出版会、2013

年) 688頁

〔その他〕  
ホームページ等  
ホームページ  
Visualizing Economic History in Asia  
(VEHA)  
<http://www.veha.e.u-tokyo.ac.jp>

6. 研究組織

(1)研究代表者

城山 智子 (SHIROYAMA, Tomoko)  
東京大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：60281763

(2)研究分担者

神田 さやこ (KANDA, Sayako)  
慶應義塾大学・経済学部・教授  
研究者番号：00296732

松原 健太郎 (MATSUBARA, Kentaro)  
東京大学・大学院法学政治学研究科・教授  
研究者番号：20242068

村上 衛 (MURAKAMI, Ei)  
京都大学・人文科学研究所・准教授  
研究者番号：50346053

杉原 薫 (SUGIHARA, Kaoru)  
政策研究大学院大学・政策研究科・教授  
研究者番号：60117950

平井 健介 (HIRAI, Kensuke)  
甲南大学・経済学部・講師  
研究者番号：60439221

籠谷 直人 (KAGOTANI, Naoto)  
京都大学・地球環境学堂・教授  
研究者番号：70185734

宮田 敏之 (MIYATA, Toshiyuki)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究  
院・教授

研究者番号： 70309516

島西 智輝 (SHIMANISHI, Tomoki)

東洋大学・経済学部・准教授

研究者番号： 70434206

脇田 玲 (WAKITA, Akira)

慶應義塾大学・環境情報学部・教授

研究者番号： 90383918

木越 義則 (KIGOSHI, Yoshinori)

名古屋大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号： 00708919

川村 朋貴 (KAWAMURA, Tomotaka)

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号： 80377233

(平成24年9月退職により分担者を外れる。)

#### (4) 研究協力者

小川 道大 (OGAWA, Michihiro)

東京大学・大学院人文社会系研究科・研究員

研究者番号： 30712567

小林 篤史 (KOBAYASHI, Atsushi)

政策研究大学院大学・政策研究科・研究員

研究者番号： 40750435